

1889 パリから 2025 大阪・関西万博へ 夢をかけた織りを順次紹介

「ゆめ織る EXPO」展

Prologue:万博のはじまり / Episode1:Expo1893 Chicago

2024年9月17日(火)～川島織物文化館



万博出品時に制作したカタログ 左・中央：「TSUZURE-NISHIKI DE KAWASHIMA」(リージュ万博：1905年)
右：「J.KAWASHIMA'S ART FABRICS」(シカゴ万博：1893年)

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：光岡 朗）は、大阪・関西万博の開催を記念し、本社に併設の川島織物文化館で、「ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —」展を9月17日(火)より開催します。

地球規模でさまざまな課題に取り組むべく、世界中からたくさんの人やモノが集まる「万国博覧会（以下 万博）」。「世界中の国や企業が“未来社会の実験場”として、知恵やアイデアを持ち寄り、来場者に驚きや感動を与えてくれます。新しい商品やサービスが生まれるきっかけとなることも多く、1970年の日本万博（EXPO'70）では、ワイヤレスレホンやエアドーム、缶コーヒーなどが紹介されたことでも知られています。川島織物セルコンは、1889年のパリ万博への初出展以来、十数回にわたって国内外の博覧会に出展してきました。毎回、モノづくりはもちろん、市場調査や新商品販売などにトライし、さまざまな経験を積んできました。それは、来場者に夢を提供し、未来への希望を作りたいという思いから生まれたものです。

「ゆめ織る EXPO」展では、川島織物文化館が所蔵する万博関連の資料をもとに、明治期の万博にタイムトラベルし、約1年半にわたって万博と織物の意外な関係を紹介していきます。第一弾は、明治期の万博について、また、1893年のシカゴ万博のエピソードを展示します。

大阪・関西万博とあわせ、万博の今と昔、万博史の一端としてなど、当展が万博の楽しみの一助となれば幸いです。

ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —

1889 パリ から 2025 大阪・関西

会 期：2024年9月17日(火)～2025年末

場 所：川島織物文化館（京都市左京区静海市市原町 265）

休 館 日：土・日・祝祭日、夏期、年末年始

川島織物セルコン休業日

入 館 料：無料

※ ご見学は事前予約制です。見学をご希望の方は、あらかじめインターネットでのご予約をお願いします。

■ 企画概要

「ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —」展では、1889年のパリ万博をはじめ、主に明治期の万博の資料を展示します。またエピソード1では、シカゴ万博（1893年）を中心に、出展品の制作秘話や苦労話などを、当時の記録や文献を通じて紹介します。

Prologue : 万博のはじまり — 明治期の博覧会の様子

1851年にロンドンで初めて万博が開催されました。日本政府は1873年のウィーン万博に出展以降、さまざまな万国博覧会に出展してきました。川島織物セルコンは、1889年に開催された第4回のパリ万博に初めて出展し、その後も多くの博覧会に出展してきました。川島織物文化館に残る資料から、明治期の万博の様子を紹介します。



左：ボーダー（縁まわり）試織（綴織壁掛「日光祭礼」） 右：1889年パリ万博ポスター

Episode1 : Expo 1893 Chicago — “推し活”されたい！ 二代川島甚兵衛と2つの織物

二代甚兵衛は、初のパリ万博（1889年）に続き、シカゴ万博で2度目の挑戦に挑みました。前年までに2度の渡米を果たし、アメリカの最新トレンドを直接肌で感じ取った甚兵衛は、万全の準備で綴織の大型作品を出展しました。彼がそれほどまでに奮闘した理由は何だったのでしょうか？ 当時の日本には、日本の工芸品を美術品として世界に認めさせるという大きな目標があり、そのためには絶対的な評価を得る作品が不可欠でした。甚兵衛も、現在で言う「推し」として多くのファンをつかみかけたのでしょ。



綴織壁掛原画「日光祭礼」

■今後の展示予定

ゆめ織る EXPO — 万博と織物の意外なつながり —
1889 パリ から 2025 大阪・関西

NO	主な万博	概要（展示タイトル）	開始予定
Prologue	明治期の万博	万博のはじまり 明治期の博覧会の様子	2024年9月17日～
Episode1	Expo 1893 Chicago	“推し活”されたい！ 二代川島甚兵衛と2つの織物	2024年9月17日～

Episode 2	Expo 1900 Paris	アールヌーボー全盛期に行われたパリ万博でのエピソードを紹介	2024年11月末頃～
Episode3	Expo 1904 St. Louis	セントルイス万博に出展した作品について、二代川島甚兵衛と工場長の思いを交えて紹介	2025年1月中旬頃～
Episode4	Expo 1905 Liege	二代甚兵衛の思い描いた日本の織物の新しい姿を考察	2025年2月末頃～

※開催概要・開始時期等は変更になる場合があります。

■川島織物文化館 概要

1889（明治 22）年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のごだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192 京都市左京区静海市原町 265

株式会社川島織物セルコン内

T E L：075-741-4120

開館時間：午前10時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期・年末年始（川島織物セルコン休業日）

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制

見学をご希望の方は、あらかじめインターネットでのご予約をお願いします。

ご利用案内 <https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/use/>

ご見学予約 <https://outlook.office365.com/owa/calendar/Bookings@ksc.kyoto/bookings/s/iYJ4Q8tLSE6DFzWmH7GkTw2>

見学希望日の前日までに、お申込みください。（月曜日ご来館希望の場合は前週金曜日）

ホームページ：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

アクセス：●地下鉄 烏丸線「国際会館」駅より

・京都バス（50/52 系統）「小町寺」下車 徒歩約 5 分

・タクシー 約 10 分

●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約 7 分

●京都駅より タクシーで約 40 分

